

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401806		
法人名	株式会社 風和里		
事業所名	グループホーム ふわり新発寒 1階		
所在地	札幌市手稲区新発寒6条9丁目 4-3		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=tru&amp;JigvosyoCd=0170401806-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=tru&amp;JigvosyoCd=0170401806-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年12月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても今までの暮らしの延長が出来、地域の中で今できる事を生かし生活の中に役割を持ちごく普通の生活の場として一人一人の意思を尊重し家庭的な関係と雰囲気の中で生活が継続される様心がけている。スタッフ間で意見交換がしやすく得意な事を活かし資格取得や研修を受けやすい様にしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは手稲区の閑静な住宅街に位置し、バス停からも近く、周囲には公園や町内会館もあり住環境に恵まれている。建物はログハウス風の2階建てで木の温もりが感じられ、居間・食堂は広々として明るく開放的である。利用者は町内会の新年会やお祭りに参加し、クリスマス会などホームの行事には地域の人が訪れている。幼稚園児と歌や踊りの交流があり、ボランティアがフラダンスやオカリナ演奏で訪れ、散歩などで近所の人と挨拶を交わし地域の一員として交流を深めている。食事作りや掃除などを手伝いながら持てる力の維持に努め、職員の作る独創的な遊びや脳トレを楽しみながら笑顔で平穏な日々を送っている。医療面では、協力医の月2回の訪問診療、毎週の訪問看護、訪問マッサージ、薬局の居宅療養管理指導を受け健康保持に努めている。防災面では、火災、地震や水害への防災訓練への参加、ホーム内にはAEDが設置され全ての職員が使用方法を身につけているので安全・安心な毎日を送っている。家族は、お便りによる個人ごとのコメントで本人の状況を知り、運営推進会議では意見や希望を述べ、敬老会やクリスマス会で他の家族と交流しており、アンケート調査にはほとんどの家族が満足との声を寄せている。利用者を支える職員は、管理者を中心としてチームワークよく、研修会で研鑽しケア技術や知識を高め、ゆったりと安全で健康な生活ができるよう、利用者に寄り添った支援に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに掲げ共有し日々のケアに活かしている	理念を目につきやすい所に掲示するとともに、勉強会のプリントへの掲載、介護計画の作成時に理念を振り返り、職員共有のもと実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや新年会の参加、幼稚園との交流の他、ごみ捨てや散歩など日常的にご近所の方と触れ合える様務めている	町内の夏祭り・新年会・清掃など各種行事に参加し、事業所が行うクリスマス会には地域の人を訪れている。近隣の幼稚園児やボランティアの来訪があり、地域の一員として日常的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について会議に取り入れたり町内の新年会などで尋ねられることもあり都度会話する機会があり理解に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開き会議の内容を共有し実践に活かしている	町内会役員、民生委員、包括支援センター職員、複数の家族が出席して開催している。利用者の集う場所で会議を開催しているので、その状況は利用者にも伝わっている。運営・活動状況報告のほか、毎回議題を設定しているので、活発な意見交換が行われ、運営に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が連絡を取り連携に努めている	市や区の連絡会議に積極的に参加している。生活保護や介護保険等の手続き・報告関係では、来訪時の対応や必要の都度担当窓口を訪問し相談・連絡を行い、日頃から連携を密にして信頼関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チェックリストやマニュアルを元にユニット会議で話し合い日々実践に取り組んでいる	「身体拘束等の適正化指針」を作成し、委員会を3か月に1回以上開催している。ユニット会議で2か月毎にチェックリストで確認を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、言葉による抑制についても職員同士注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリストを使用し正しく理解し注意してケアに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者だけでなく皆で話し合い活用できるよう学ぶ機会を設けたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつでも不安や疑問など問い合わせいただけるよう心掛けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時にご意見や日頃の会話から意見など共有し話し合っている	家族の来訪時には、利用者の状況を伝え、意見・要望を引き出すよう心掛けている。敬老会、クリスマス会など家族の行事参加、毎月のお便りに職員からの個別通信欄・診察結果欄を設け意思疎通を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議には本社部長も出席し個人面談にも意見や要望を聞いている	毎月開催のユニット会議で発言しやすい雰囲気づくりに努め、意見・要望を聞いている。半年ごとに個人面談を設け、目標を決め、反省、次の目標に向けアドバイスをを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が町内の会館をかりて説明かいを設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが研修を受けやすい環境に努め進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所や入居者様の交流を設け向上に心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に1日も早く馴染んでいただけるように接点を増やし会話して頂ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に笑顔で会話しご家族様とも話易い雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との会話から情報収集し求められている支援に添える様務めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何をしたいのか声にならない声を聴きとれる様日頃から関係を築ける様務めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の架け橋になるべくホームへのご来訪の機会を増やし共通の楽しみを持っていただける様に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族同士が交流できるような行事やご来訪や過去の話題などをして支援ができる様務めている	馴染みの人などの情報はアセスメントシートにより把握しており、来訪の折にはこれまでの関係を大切に会話に繋げ、居室や居間でゆっくりと寛げるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の時間も大切にしながらも他者との交流もできる様声かけ等している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベントの参加の呼びかけや日常のご様子を写真にお手紙や電話でお知らせし随時フォローにつながるよう努めている		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご意見やご要望に耳を傾け解決や改善に向かう方法をご本人の意思でも決められる様に一生に検討している	殆どの利用者が言葉で思いや意向を表出でき、特に入浴での1対1の会話から多くの情報を得ている。家族からの情報も加え、業務日誌に記載し、職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話などから情報を収集し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や身体状況を職員全員で把握しお一人お一人の現状を把握出来る様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人からのご希望を根元とし各々の意見に添える様現状に留意した計画作成している	モニタリングは、毎月のカンファレンスで行っている。介護計画の作成は、日々の状態を記録した支援記録をもとに、本人・家族の意向、医師・看護師の意見を踏まえ、職員全員で検討して3か月毎に作成している。状況が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録に残し情報交換を行いながらケアプランに基づいた支援サービスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人の体調や気持ちに添える様に無理のない支援、サービス提供に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や地域の幼稚園等の行事に参加し楽しめる様に心がけている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調や変化をよく観察し情報を共有する	協力医とは24時間連携体制が整備され、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護がある。訪問マッサージの受け入れ、薬局の在宅療養管理指導も受け健康管理を行っている。かかりつけ医の受診は、家族が困難な時は職員が同行支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や訪問看護の際に細かな情報を伝え支持を仰いでいる。また、薬剤師とも情報を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、ご家族や医療機関と連携し対応する		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、本人、家族の意向や主治医とも情報を交換など行い取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の指針」に基づき、本人・家族に説明し同意を得ている。重度化した時は、家族、医師、事業者（管理者・ケアマネ）と話し合い、チームで支援することとしている。職員は、ターミナルケア研修を受講しており、看取りの体制整備を進めつつある。	看取り直前までの支援の経験はあるが、家族からの看取りの希望もみられるので、全職員の看取りに対する不安軽減対策の構築を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が対応できるように講習会に参加したりAEDの使用方法を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常訓練のほか夜間職員1名を想定し避難誘導訓練を行い反省点を共有している	年2回、消防署指導のもと、利用者、地域住民が参加し避難訓練を実施しているほか、水害、地震に対する自主訓練も行っている。緊急連絡網の整備と一斉連絡の実施、避難場所の周知、備蓄品の確保、町内の災害対策会議に出席し、地域の協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の趣向に配慮しつつ支援をしている	接遇研修を受講し、話し合い、一人ひとりの羞恥心やプライドを損ねないよう言葉掛けに気を配っている。目に触れるファイルはイニシャル表示とし、個人台帳類はスタッフルームで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や本人の思いを聞き日々の生活が出きる様に関係作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の表情や言動を把握し本人のペースで自己決定に出来るように待つことの大切さを研修で伝え支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できるような声かけをしその方らしい身だしなみができる様に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目や食べやすさを重視しこれまでの環境を引き出す会話をしながら準備や食事をしている	専門業者に、管理栄養士によるバランスのとれた献立と食材の配達を依頼しているが、調理は利用者も手伝いながら職員と共に作っている。月1回、お弁当の日や行事食を取り入れ、年1、2回は外食をするなど楽しい食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴時の体重測定を元に量の調整や一人一人に沿った塩分調整、水分調整を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	衛生士や歯科医の指導を元に毎食後の口腔ケアやポリドントをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合せた声かけや誘導を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間や表情などで声掛け誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。これまでリハビリパンツ・パッドから布パンツへ改善した事例もみられ、入院により機能低下した利用者には、早期に元に戻すことを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳やヨーグルトの提供やテニスボールで腹部マッサージを自発的に行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分や体調に考慮した声かけと足浴などしながら会話をし個々の楽しみになる様心がけている	週2～3回、午前中や午後、利用者の希望に応じ柔軟に対応している。車イスの利用者は、安心・安全のため二人介助を行っている。入浴時に会話を楽しんだり、入浴剤の使用、菖蒲湯や柚子湯の日を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースに合わせた生活をして頂ける様日々の状況に沿いながら急速や安眠が出来る様配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携を図り職員全員が把握し身体の変化に気づき対応できる様に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味のある事を把握し役割を持ち1日1日を楽しみを持ち生活して頂ける様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて外気に触れ気分転換をして頂ける様声かけを行っている。季節の変化を楽しんでいただける支援を行っている	日常的に近隣の公園の散歩、個人の買い物などに出掛けている。外出行事として、ショッピング、花の鑑賞、紅葉狩り、ドライブなど車イスの利用者も外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応しお買い物やおこづかい帳をつけるなど支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からやご友人からのお電話、はがきなどのやり取りができる様取り組んでいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や温度に気を配り季節を取り入れた飾りをしてアイデアを出し合いながら取り組んでいる	建物は木を基調として温かみがあり、居間・食堂は、広い窓から陽が差し込み、開放的で明るい雰囲気である。全館床暖房で、温・湿度も快く管理されている。季節ごとの飾り、利用者の塗り絵作品や幼稚園児の大きな貼り絵作品が飾られ、金魚の水槽、植木鉢が置かれ、寛ぎの共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話やゲームなどを通し席の配置や仲介を行い工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の生活歴やお好みに合わせて安心して使える馴染みのものを配置し工夫している	居室には広いクローゼットが備え付けられ、使い慣れたベッド、タンス、テレビなどを持ち込んでいる。中には仏壇を持ち込み毎日水替え、礼拝を欠かさない利用者も見られる。家族の写真、塗り絵作品、人形など思い思いに飾り、居心地の良い居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に気を配り一人一人の好みやできる事を活かし生活が送れる様に支援している		